

国際交流員着任

新体制で向かう2020年

7月31日、本市に新たな国際交流員が着任しました。東京オリンピック・パラリンピックにおけるドイツ選手団の事前キャンプ誘致に向けて、本市とともに歩むパートナーを紹介します。

日本語の美しさに魅せられて

「日本に興味を持ったのは高校生のときです。日本のアニメ」となりのトトロ」や「ものけ姫」を見て、日本語の美しさに魅了されました。そう語るのは、7月31日から市の国際交流員に着任したアナマリ・グンツェルさんです。穏やかな笑顔と物腰の柔らかさが印象的なグンツェルさんは、ドイツ北東部のマクテブルク出身です。「日本を学びたい」という志が高く、平成22年から故郷を離れ、ベルリン自由大学に進学して日本学を専攻。現在も同大学に在学する現役の大学院生です。また、平成24年8月から1年間、日本の中央大学に留学し、総合政策学部で語学や文化、政策などさまざまな

分野を学びました。

勉強の傍ら、日本の食文化にも興味津々だったグンツェルさん。食べて学び、作って学び、現在では大好物の「かつ丼」を自分で作るほどの腕前です。また、スポーツの経験も豊富で、ヨガ、乗馬、ボルダリングなど、その種目はさまざま。スポーツ少年団の国際交流事業に参加してイスラエルの少年団と交流するなど、子どもの頃から国際感覚を身に付けています。グンツェルさんのスポーツへの情熱は親譲りのようで「母は空手をしています。ドイツでは空手が人気で、たくさんの道場があるんですよ」と笑顔で話しました。

田川とドイツの絆を繋ぐ

本市は、日独スポーツ少年団同

時交流事業のドイツ派遣団を受け入れるなど、ドイツとの交流を深めており、東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致においても、同国に焦点を絞っています。3年後の2020年に向けて歩みを進めるためには、前任のリア・ベアクスさんに続く「ドイツ出身の国際交流員」の獲得が必須条件であり、これまでの実績や今後の展望を踏まえて総務省と密に交渉を重ねた結果、今回の着任に至りました。

本市の国際交流員は、今後も引き続き東京オリンピック・パラリ

ンピックの事前キャンプ誘致の取り組みのほか、外国語の書類の翻訳、海外からの来訪客の対応、通訳、国際交流事業の企画や実施などを担います。

「これから国際交流員として、人・物・文化を通して日本とドイツの交流を広めていきたい」と力強く語るグンツェルさんは、田川とドイツの絆を繋ぐためのさまざまな企画を検討しています。今後、地域や学校、市のイベントなどで、市民のみなさんと交流する姿が見られることでしょう。



りゅうちょう
流暢な日本語で今後の抱負を語る
アナマリ・グンツェルさん

TOPICS NEWS

前任者のリア・ベアクスさんがJET 絆大使に任命されました！



本市で1年間国際交流員として活躍し、7月に退任したリア・ベアクスさんが、総務大臣から「JET 絆大使」に任命されました。これは、国際交流員としての功績を称え、今後もドイツと日本の友好関係の強化に協力をお願いするものです。リアさんは「国際交流員として地域のみなさんと交流する中で、さまざまな勉強や体験ができました。どれも田川のみなさんとの大切な思い出です。これから日本語やビジネスなどをもっと学んで、また日本に戻ってきたい」と今後の意気込みを語りました。日本や田川との絆を胸に、活躍を続けるリアさんを、これからも応援しましょう。



国際交流員(CIR)とは？

国際交流員 (Coordinator for International Relations) とは、国の制度であるJETプログラム（語学指導などを行う外国人青年誘致事業）により、地域での国際交流の進展を図るために自治体に招致される海外の青年のことです。

異文化に対する関心を高め、外国人の人々とのコミュニケーション方法や国際感覚を養うためのさまざまな事業の企画・実施の支援などを行います。



TOPICS NEWS

「ドイツ車いすスポーツ連盟」の機関紙に田川市の取り組みが紹介されました！



4月10日、市はドイツ車いすスポーツ連盟と「ドイツ車いすフェンシング選手団」の事前キャンプ誘致について仮調印を交わしました。また、6月には市と福岡県の関係職員で同国を訪問し、障害者スポーツの先進事例を学ぶなど、2020年に向けて活動を展開しています。この取り組みが同連盟の機関誌「Sport + Mobilität MIT ROLLSTUHL」に掲載されたため、一部を抜粋して紹介します。

日本の代表団がハンブルグを訪問 ー新しい協力の始まりー

6月上旬に日本の福岡県田川市から代表団がドイツを訪れ、パラリンピックに関係するさまざまな組織を訪問しました。その目的は、田川市で適切な環境を整えるため、バリアフリーの施設や障害者スポーツの組織構造などを学ぶことでした。この訪問を受ける前の4月、ドイツ車いすスポーツ連盟のツィーグラーさんが田川市を訪問し、今後の協力を強化することを確認しました。遠く離れた日本へのツィーグラーさんの訪問は、同市のメディアから注目を浴びました。この国際的な交流を受け、同連盟は6月上旬に田川市の平川裕之さんと福岡県の波多野直美さんをハンブルクの病院に招待。実際に車

いすに乗る体験を通して、リハビリテーションの方法などについて理解を深めました。その後、車いすバスケットボールの団体から障害者スポーツの話聞き、平川さんは「日本に比べて、ドイツは障害者スポーツを支える組織構造と制度が発展している」と驚いていました。田川市は2020年に向けて体育施設のバリアフリー化や宿泊施設の充実などに取り組んでいます。また、これを契機に、障害者スポーツが普及する魅力的な市になることも目指しています。

